

国立国語研究所学術情報リポジトリ

An attempt to use 'Word List by Semantic Principles' for collecting metaphor examples from the corpus

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 祥, 浅原, 正幸 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001528

分類語彙表番号を用いた比喩表現収集の試み

加藤 祥 (国立国語研究所コーパス開発センター) †

浅原 正幸 (国立国語研究所コーパス開発センター)

An attempt to use 'Word List by Semantic Principles' for collecting metaphor examples from the corpus

Sachi Kato (National Institute for Japanese Language and Linguistics)

Masayuki Asahara (National Institute for Japanese Language and Linguistics)

要旨

比喩表現類型に意味情報を付与し、意味的な要素の結合を比喩表現の指標とした用例収集を試みた。まず、日本語比喩表現の類型を『分類語彙表増補改訂版』に基づく意味分類で整理した。具体的には、国立国語研究所報告 57『比喩表現の理論と分類』に挙げられた結合類型 (5,537 種類) に含まれる要素の自立語すべてに人手で分類語彙表番号を付与し、比喩表現類型を意味分類において整理したデータを作成した。次に、意味分類の結合を比喩表現の指標として、分類語彙表番号を付与した「現代日本語書き言葉均衡コーパス」のコアデータの一部 (約 19 万短単位) を調査した。本発表では、本手法によって取得できた BCCWJ の比喩表現例を示すとともに、比喩表現類型の意味分類結合を用いた比喩表現収集可能性について考察する。

1. はじめに

これまで比喩表現の用例収集にあたっては、一般に、指標となり得る「よう」のような要素をキーとした検索による収集を行ってきた。しかし、コーパス等を用いて検索を行う場合であっても、指標となり得るキーは、比喩表現でない推定や例示などの文脈にも出現するため、検索結果から比喩表現を人手で選別する作業が必要となっている。さらに、明示された比喩指標がなく、一定の言語形式が手がかりとならない隠喩のような場合には、人手による地道な収集作業を行うしかなかった。用例を収集するためには、文脈上結合する要素のずれを判定する必要がある、表面化しない比喩性を、読み手が文脈から読み取る作業が生じるためである。このように、比喩表現について必要十分な用例を収集するには多大な作業時間を要し、用例に基づく調査は困難であったといえる。比喩表現を大規模に収集することが可能となれば、用例から比喩表現の特徴分析を行うことはもちろん、日本語比喩表現の使用傾向を確認することもできる。そこで、本稿は意味的な要素の結合を指標とし、意味情報を付与したコーパスから比喩表現用例の収集を試みる。

2. 関連研究と本研究

コーパスを用いた近年の比喩研究として、コーパスへ USAS (UCREL Semantic Annotation System) によって Tom McArthur's Longman Lexicon of Contemporary English の類語分類の意味タグを付与し (Hardie, et al., 2007, Koller, et al., 2008 など)、文脈上の結合要素の意味分類グループを検索する手法が進められている (Semino, 2005)。

† yasuda-s@ninjal.ac.jp

この種の調査では、たとえば、闘病記コーパスの比喩表現では戦争や旅のような意味分類が用いられやすいことを示した例 (Semino, et al., 2015) など、文脈における要素の意味分類の異質性が着目される。現在、日本語においても、国立国語研究所によって、現代日本語書き言葉均衡コーパス (以下 BCCWJ とする) への分類語彙表番号の付与が進められている (加藤ほか, 2017)。すなわち、日本語コーパスに分類語彙表番号が付与され、意味的な情報による検索が可能になりつつある。たとえば、分類語彙表番号の付与された BCCWJ を用いることで、「よう」のような比喩表現の指標となり得る要素の意味から指標比喩が抽出可能となり、また意味分類の結合を用いた日本語比喩表現の収集が可能となることが期待されるのである。

但し、意味分類の結合を検索するためには、日本語比喩表現における要素の結合類型と、それぞれの要素の意味分類が必要である。日本語比喩表現の類型を検証した大規模な調査として、中村 (1977) 『比喩表現の理論と分類 (国立国語研究所報告 57)』がある。同書は人手の作業により収集・分類された多くの類型がまとめられている。類型を一つずつ検索することは困難であるが、比喩表現類型を意味分類結合類型に整理し、意味分類結合を指標とすることで、意味情報付きコーパスから比喩表現が収集可能となると考えた。また、同中村 (1977) の収集データにおける出現頻度などは近現代の文学作品に限定されているため、比喩表現類型に示された用例が現代日本語として十分に取得できるのかという検証とともに、現代日本語における比喩表現の出現傾向の調査が望まれるものと考えられる。この点についても、各類型を BCCWJ から収集することが可能となれば、用例収集が容易になることはもちろん、大規模かつ均衡データに基づく類型の整理や出現頻度の確認、特徴分析などによって新たな発見も期待されよう。

このような、コーパスに基づく現代日本語における比喩表現の類型の整理および特徴分析を試みるため、本稿はまず、分類語彙表番号を利用した比喩表現用例の収集可能性について検討する。また、比喩表現の指標として、比喩表現における要素の結合を『分類語彙表』に基づく意味分類で整理した意味分類結合を用いる。具体的には、前掲中村 (1977) に挙げられた結合比喩の結合類型 (5,537 種類) に含まれる自立語すべてに分類語彙表番号を付与することで、結合比喩類型の要素を意味に分類する再整理を行った。次に、比喩表現の指標となり得る要素の意味分類、また結合比喩類型に含まれる意味分類の結合を用い、分類語彙表番号の付与された BCCWJ の一部 (約 19 万短単位) から比喩表現用例の取得を試み、本手法の可能性と問題点を考察する。

3. 指標比喩と結合比喩

前掲の中村 (1977) は、受け手側がどのように比喩であることがわかるかの違いに基づく 3 類を分類の基本としている (表 1)。第 1 類が「指標比喩」であり、「あたかも」「まるで」「よう」のような比喩であること目印となる表現を含む。いわゆる直喩 (simile) 形式である。第 2 類は「結合比喩」であり、単独では比喩とのかかわりを持たない語の組み合わせにおいて、「空が泣きだす」「感情の炎」のような結びつきによって比喩性が生じる表現である。いわゆる隠喩 (metaphor) 形式であると考えられる。なお、第 3 類の「文脈比喩」は、その表現がその文脈に置かれることによって比喩となる種類であるため、文を超える単位の結合比喩ともいえるが、作品全体に及ぶ確認が必要となる場合もあり得る。本稿では、主に短単位に付与した意味分類を用いた調査を試みるため、文を超えた結合については扱わない。すなわち、第 1 類の指標比喩と第 2 類の結合比喩を調査対象とする。よって、指標比喩では、比喩の成立に特定の言語形式を備えているものと考え、当該形式の意味分類に着目する。結合比喩では言語単位の結びつきに論理的な飛躍が存在するものと考え、結びつく短単位の意味分類に着目する。

表 1 中村 (1977) による比喩の分類

		定義	例
第 1 類	指標比喩	表現主体の比喩意識を反映する何らかの言語形式をそなえ、それを契機として、受容主体が比喩を感じとる種類。「比喩指標」の抽出が可能な比喩表現例の総称。	「まるで-も-ばかり-見えた」 「いわば-よう-思われる」 ※全体が「比喩指標」、一つひとつの言語形式「まるで」「も」「ばかり」「見える」などは「比喩指標要素」
第 2 類	結合比喩	特定の言語形式が抽出できないが、何らかの意味での結合のずれ(通常の表現では現れにくい組みあわせ)が認められる種類。	「心に-ふれる」 「死が-待ち構える」 ※結合上のずれが比喩の成立に直接関与している部分の結びつきを示す
第 3 類	文脈比喩	特定の形式を指標とせず、構成要素間の異常な結合は指摘できないが、ある文脈に置かれた時に、その表現の基本的な言語的意味では関連を持たないことを契機として、臨時的な個別の意味を推測させることによって成立する種類。	「かじとりのぼくが下手だからといって、中でおまえがあばれだしたら、小舟はひっくりかえって全滅するだけなんだ」 ※文脈は「家庭の問題」であるため、文字通りの意味が文脈に反撥する

4. 現代日本語書き言葉均衡コーパスへの分類語彙表番号付与について

加藤ほか (2017) は、現代日本語書き言葉均衡コーパスへの分類語彙表番号付与作業を進めている。分類番号の構造例を表 2 に示す。現在までのアノテーション作業対象は、アノテーション優先順位に基づいた、コアデータに含まれる新聞サンプル(部分集合 A:PN(A), B:PN(B)が作業済み)と書籍サンプル(部分集合 A:PB(A)作業済み, B:PB(B)は作業中)、雑誌サンプル(部分集合 A:PM(A)から順次作業中)であり、現在(2017年6月)までに191,211短単位(140サンプル)へ分類語彙表番号が完了している。作業にあたっては、これらのサンプルに対し、分類語彙表番号を手で UniDic 語彙素番号(小木曾・中村, 2014)に対応させたデータ(近藤・田中, 2017)により、BCCWJの言語単位(短単位・長単位)に対応可能性のある分類語彙表番号を列挙したうえで、人手で正しい語義を選択する。あるいは、適切な候補がない場合、手作業で意味分類を付与する。たとえば、「ような」などの意味分類にあたり、分類項目として様相(.1300)を付与したいが、相の類(3)において「様相」の中項目(.13)が分類語彙表にない。このように、中項目あるいは分類項目が分類語彙表にない場合には、他の類(「よう」の場合、体の類(1)に様相(.1300)の意味分類がある)における同分類項目を参照するなどして、意味分類を付与する。また、同付与作業にあたっては、機能語を除くすべての短単位と長単位に分類語彙表の 5 桁目まで(類・部門・中項目・分類項目まで)の番号を付与しているが、本稿の調査においては文脈比喩を扱わないため、主に短単位に付与された分類語彙表番号を利用する。

表 2 分類番号例(よう:分類番号 3.1300)

類	部門	中項目	分類項目
相(3)	抽象的關係(.1)	様相(.13)	様相・情勢(.1300)

5. 分類語彙表番号と比喩表現

まず、指標比喩と結合比喩について、分類語彙表番号を活用した比喩表現であることの判断と、比喩表現の収集方法を考察しておきたい。

5. 1 指標比喩と分類語彙表番号

指標比喩の場合、比喩表現の目印となる表現が用いられており、そのような指標は当該表現が比喩であることの判断根拠としやすい。しかし、比喩であることを示す指標を探せば、比喩表現の用例が収集しやすいというのではない。

(1) は比喩指標となり得る「よう（語彙素：様）」を、動詞と共に起する型で2例含むが、「食い入るように見つめる」は比喩表現であろうが、「書くようになる」は比喩表現ではなからう。このように同型で出現する「よう」が比喩指標として機能しているのかどうかは、読み手の判断が必要となるといえる。

(1) 転機はひとみさんが六年生のとき。研究のため家族四人そろって渡米した。不登校は相変わらずだったが、本に興味を持ってくれた。日本から送った古典の現代語訳作品をはじめ、本棚に並ぶ本をむさぼり読んだ。一緒に行動しようと自分が好きな舞台に連れ出すと、長時間のオペラを食い入るように見つめていた。帰国後、中学校の校長は「特別扱いはできないが、卒業証書は出す」と言った。不登校に加え、何度となくリストカットも繰り返す。カウンセリングにも通った。本格的に小説を書くようになったのもこのころだ。

(サンプル ID : PN4g_00003, 西日本新聞, 下線は著者による (以下同様))

同様に、(2) に見る、「ダイヤモンドのように」のような比喩指標として作用する表現を含む用例についても、「多様化しているようだ」「デフレにならないようやってきた」のような「よう」と区別される比喩表現であるかという判定は、これまで人手によるしかなかった。

(2) わたしは、夜空を見るのが大好きです。それは、いろいろな星ざがあつて、ダイヤモンドのようにピカピカひかかってきれいだからです。その中でも、月は大きくて王さまのようです。

(サンプル ID : PN2g_00004, 西日本新聞)

しかし、分類語彙表番号が「よう」に付与される際には、3.1300 (様相) と 3.1130 (類似) の区別が為される。よって、「ダイヤモンドのよう」は 3.1130 が付与されるが、「多様化しているよう」には 3.1300 が付与され、同じ「よう」であっても意味的に区別が行われることになる。付与された分類語彙表番号を用いることにより、「よう」のような比喩指標となり得る要素を伴う比喩については、抽出、用例の収集がしやすくなることが期待される。

もちろん、比喩の指標は画一的でない。前掲の中村 (1977) では、収集された指標 (見える、近い、さながらなど) が 441 種類掲載されている。指標は組み合わせられることもあるため、組み合わせ類型 (…という風情、いかにも・おもむき、まさか・ではあるまい、など) は 1,617 種類にのぼる (例 (3) を参照)。これらの指標をすべて検索することは困難であるが、指標と分類語彙表番号 3.1130 を組み合わせることにより、比喩指標用例が収集可能となるといえる。

(3) その反面、クローン人間という言葉は未だにリアリティーを獲得できずにいる。まるでスクリーンの向こうのヴァーチャルな世界のことのように。しかしこの本を読めば、クローン人間がいかにか切実にわれわれの日常に結びついているのか、どれほど現実的な要請がそこにあるのかが、グロテスクなほどに実感される。

(サンプル ID: PN1c_00007, 読売新聞)

もっとも、指標となる要素が一般的な語であれば、3.1130 のような分類語彙表番号を使用することはできない。(4) は、「表現する」を指標として比喩表現と読むことができる例であるが、短単位の「表現する」に類似 (3.1130) は付与されていない。

(4) 五輪のマーケティング収入は、右肩上がり伸びてきた。八十年からの4年間で7億9千万ドルだったのが、九十六年から4年間で三十七億5千万ドルに膨らんだ。

マーケティング委員長のパウンドは「IOCという自転車は、こぎ続けなければ倒れてしまう」と表現した。米国を中心とする世界経済は緩やかに減速している、とも言われる。IOCは新世紀初めに、中国市場という不安定要素を抱えることになる。

(サンプルID: PN1a_00008, 朝日新聞)

同様に(5)は「見える」が指標となって比喩表現の用例とわかる例である。しかし、(6)の「見える」は比喩表現とは言い難い。分類語彙表番号を付与した191,211短単位のうち、語彙素「見える」は66件であったが、比喩表現は10件であった。「見える」の用例は比喩表現ではないか、比喩表現であると判断し難い例が8割以上を占めており、比喩指標として機能している例は1割程度に留まる。これらの例に見る指標比喩であるかどうかの判別については、次節の結合比喩と同様に考えたい。

(5) でもじっと眺めているうち、怖いと感じ始めた。理由はすぐに分かった。不気味な枝ぶりを誇る樹木が、たけり狂う竜か化け物に見えたからだ。だが上品な画題とは似ても似つかぬ印象は、この屏風が型破りな作品を生涯描き続けた雪舟のまさに真筆だと明かしているようにも思う。

(サンプルID: PN2b_00002, 毎日新聞)

(6) どんなに健康そうに見えても、急に病に倒れ、治療が必要になることがある。いったん治療が必要になれば、検査・診断・治療・入院など、費用がいくらかかるか、事前には予測できない。

(サンプルID: PN1c_00006, 読売新聞)

5. 2 結合比喩（指標が有効でない・指標がない）と分類語彙表番号

指標となり得るが比喩表現でない場合に用いられることの多い指標を含む指標比喩、指標のない比喩表現についても、分類語彙表番号を用いた比喩表現かどうかの判定を行うにあたっては、当該表現に含まれる要素の結合に着目することが有用であると考えられる。付与された分類語彙表番号から、文脈に頻出する意味分類グループとの結合にずれがある分類番号から、結合比喩であるという判定が可能である。

指標から比喩表現と判断できる場合でも、(4)は、「IOC」(1.2750(分類項目: 国際機構))が主題であり、「自転車」(1.4650(分類項目: 乗り物(陸上)))という分類番号の結合のずれにより、比喩表現であると判定できる例と考えられる。また、周辺文脈の語には、いずれも「.37(中項目: 経済)」「.38(中項目: 産業)」が付与されていることから、「自転車」(分類項目: 1.4650)の文脈における異質性が判断できる。(5)についても、「樹木(分類項目: 1.5400)」が「竜(分類項目: 1.5506)」・「化け物(分類項目: 1.2030)」と結合していることから、分類番号の結合のずれが認識される。また、単純な結合でなく文脈においても、(2)のように「.52(中項目: 天地)」が付与された中に「ダイヤモンド(分類項目: 1.5111)」と「王さま(分類項目: 1.2320)」が現れるという文脈的な結合のずれから、比喩表現であると判定できる例もある。このように、分類語彙表番号の結合のずれに着目することで、比喩表現かどうかという判定ができる可能性が考えられる。

但し、慣用的となっている表現については、分類語彙表に記載があり、UniDic-分類語彙表番号対応データに登録されているため、読み手によって結合にずれが生じていると判断される場合も、意味的にずれの生じることのない番号が付与される場合がある。(7)では、分類語彙表において「凍結する」に2.5130(分類項目: 水)のほか2.1240(分類項目: 保存(放置する, 存属するなどと同分類))の分類があるため、作業にあたっては2.1240(分

類項目：保存)を付与することになる。よって、分類語彙表に比喩的な意味の分類語彙表番号がある場合については、分類番号にもとづいた文脈的な結合から比喩表現として抽出しにくくなるという問題がある。

(7) 米国のエネルギー政策見直しを指揮しているチェイニー副大統領は8日、CNNテレビのインタビューで「環境対策、経済性の両面から原子力(発電)は好ましい選択肢だ」と語り、十七日に公表される見通しのブッシュ政権のエネルギー政策の大綱で、千九百七十年代から事実上、凍結されている原子力発電所の新規建設を打ち出す考えを示した。

(サンプル ID : PN1d_00002, 産経新聞)

このように、分類語彙表番号は意味分類の結合のずれを確認し、結合比喩であることを判定するためには有用であるといえる。しかし、結合比喩の用例を収集したい場合を考えるに、意味分類の結合のずれを探すためには、結局のところ用例を一つ一つ確認する必要が生じてしまう。そこで、結合比喩にどのような種類のものがあるのか、類型を指標とした用例収集を行うことが有効であると考えられる。

結合比喩については、『比喩表現の理論と分類』に、5,537種類の類型が挙げられている。たとえば、「名詞が自動詞」の類型を見ると、爆発する名詞として気持、感情、怒り、憤怒、鬱憤などが並んでいる。揺れる名詞は気持ちや感情、自信などが並ぶ。一つ一つの類型を確認することで、比喩表現であるという判定はもちろん可能であるが、種類の種類が多いため、一つ一つの類型を調査することは困難である。そこでさらに、分類語彙表番号を利用し、これらの類型に含まれ、結合する要素の意味分類を見てみたい。

意味分類を見ると、2.1511(分類項目：動揺・回転)とは、1.3000(分類項目：心)や1.3031(分類項目：声)と結びつきやすいという結合の傾向が確認できる。よって、このような結合比喩例について意味分類を行うことで、比喩表現として結合しやすい意味分類の組み合わせが取得できるものと考えた。実際に、(8)のような「声」(分類項目：1.3031)」と「弾む」(分類項目：2.1511)」の結合比喩が、分類語彙表番号を付与したBCCWJの一部から3例抽出できる。

(8) 「ウン、じゃ、いい所があるから、三宝も是非誘ってみてよ」

正樹の声は弾んでいた。青山通りの近くにいいレストランを見つけた、実はゆうべ、もうそこを予約してしまった、少なくとも二人、ひょっとして四人になるかも知れない、人数は明日改めて知らせるといってある、三宝が来るかどうか確認してほしい、と一気に喋った。

(サンプル ID : PB29_00003, 高山路爛「わが愛はやまず」)

付与された分類語彙表番号を用いることで、BCCWJから比喩表現であると判定される表現を収集することが可能と考えられる。次節では、実際に分類語彙表番号を用いた用例の収集を試みたい。

6. 分類語彙表番号を用いた比喩表現収集の試み

分類語彙表番号を利用して比喩表現の収集を試みる。調査対象として、4節に示した分類語彙表番号を付与したBCCWJの一部を用いる。また、調査の指標として、中村(1977)の結合類型を用いる。

6. 1 結合比喩類型への分類語彙表番号付与

まず、中村(1977)に掲載された結合比喩の類型5,537種類について、各結合に含まれる要素(助詞などの機能語を除く11,827語)に分類語彙表の5桁目まで(類・部門・中項目・

分類項目まで)の番号を付与した。作業は、分類語彙表番号を手で UniDic 語彙素番号(小木曾・中村, 2014)に対応させたデータ(近藤・田中, 2017)を用い、結合比喩の要素に対応可能性のある分類語彙表番号を列挙したうえで、手で正しい意味分類を選択する。あるいは、適切な候補がない場合、手作業で意味分類を付与した。

中村(1977)の結合比喩類型は意味的に整理されている。付与した意味分類(分類項目まで)で再整理すると結合比喩類型は4,477種類であった。そこで、中項目(3桁目)によって再整理を行ったところ、結合比喩類型は1,545種類となった。表3に、結合比喩類型を意味分類(中項目)で整理した、意味分類結合類型の頻度(上位)を示す。結合する意味分類として見ると、心(中項目:1.30)と作用(中項目:2.15)の結合類型が最も多く、心(中項目:1.30)と心(中項目:2.30)の結合類型が次ぐ。

表3 意味分類結合類型(分類項目4,477種類)の中項目整理(類型頻度上位)

結合する要素の意味分類 (中項目)	類型頻度	類型例
1.30(心)2.15(作用)	316	嬉しさが湧く, 自信が揺らぐ, 眠りに落ちる, 愛を注ぐ
1.30(心)2.30(心)	103	考えが苦しめる, 決心を抱く, 心にきざみつける
1.56(身体)2.15(作用)	60	目が走る, 口がすべる, 胸に浮かぶ, 舌をはずませる
1.30(心)1.30(心)2.15(作用)	58	悦びが心に充ち溢れる, 憂鬱が心を閉ざす
1.50(自然)2.15(作用)	54	音が流れる, 臭いがからみつく, 色彩をばらまく
1.30(心)2.12(存在)	52	思い出が残る, 落ち着きを失う, 気持ちに(距離が)ある
1.16(時間)2.15(作用)	50	時が来る, 季節が歩む, 年月を追う, 時間をあける
1.31(言語)2.15(作用)	48	言葉が浮び出る, 話に溶けこむ, 言葉をさえぎる
1.30(心)2.33(生活)	42	心が騒ぐ, 満足を抱きしめる, 感情を反芻する
1.51(物質)2.15(作用)	42	雲が飛ぶ, 風が向かって来る, 雪が包む, 雨が叩く

なお、結合比喩類型に含まれていた要素すべてについて、上位頻度の意味分類(中項目)を表4に示しておく。比喩表現において結合する要素として、そもそも心や作用、身体、自然などが用いられる型の多いことがわかる。

表4 結合比喩類型に含まれる意味分類の頻度(上位のみ)

分類語彙表番号(中項目)	要素頻度(計3,589語)	(100%)
1.30(心)	307	8.6%
2.15(作用)	219	6.1%
1.56(身体)	180	5.0%
1.50(自然)	126	3.5%
1.51(物質)	97	2.7%
1.31(言語)	96	2.7%
1.20(人間)	86	2.4%
1.33(生活)	84	2.3%

6. 2 意味分類の結合比喩類型を用いた比喩表現収集の試み

結合比喩類型における分類語彙表番号の結合を指標とし、BCCWJに付与した分類語彙表番号を用いることで比喩表現の収集を試みたい。また、結合比喩類型がBCCWJから取得できるのかを確かめ、BCCWJにおける比喩表現の類型分布を調査したい。

ここでは例として、1.55(動物)を含む意味分類(中項目)の結合比喩類型36種類²と、分類語彙表番号を付与したBCCWJの一部191,211短単位を用いた試行結果を示す。

まず、分類語彙表番号を付与したBCCWJの一部(191,211短単位)に含まれる1.55(動物)の用例を収集したところ、1.55(動物)が534例取得された。これらの用例について、人手によって比喩表現かどうかを判断した。比喩表現の判断にあたっては、中村(1977)の判定基準を参照したほか、5節で見た文脈上の意味分類分布(結合のずれ)を確認している。この結果、比喩表現と判断可能であった結合例は19例(同サンプル内で重複する同結合の例は省いた)であった。これらの用例には、指標比喩、結合比喩が含まれている。

この1.55(動物)の比喩表現19例を、結合する要素の分類語彙表番号によって結合比喩類型の意味分類に分類した結果を表5に示す。取得した用例は、10種類の結合類型に分類された。これらの結合類型は、いずれも1.55(動物)を含む意味分類結合類型に分類されるものであったが、現在までの分類語彙表番号付与済みBCCWJでは、すべての種類の用例を確認することはできなかった。今後、大規模なデータを用いた用例収集による検証が求められる。

表5 BCCWJにおける1.55(動物)の結合比喩類型

結合する意味分類(中項目)	用例数	用例
1.20(人間)	5	私, 子ども, お婆ちゃん, 友だち, 君
2.15(作用)	4	乗る, 登山する, 引っ張る, 追い詰める
2.33(生活)	3	はかせる, 噛む, 格闘する
2.38(事業)	1	(餅をつく
2.30(心)	1	見る
1.33(生活)	1	一服
2.36(待遇)	1	する
1.56(身体)	1	顔
3.34(行為)	1	無法
2.31(言語)	1	教える

次に、結合比喩類型の意味分類を用いた、比喩表現用例収集の可能性について検討したい。結合比喩類型を用いることで、(9)の1.55(動物)と2.15(中項目:作用)の結合に見るような1.55(動物)を含む比喩表現の用例が収集可能ではある。

(9) 都の下水処理施設「森ヶ崎水再生センター」の上空で歌うような声を上げながら、自

² 中村(1977)の示した結合比喩類型のうち、1.55(動物)の含まれる結合比喩類型は36種類あるが、結合順序などを考慮せず、1.55(動物)と結合比喩において結合する意味分類(中項目)として整理すると、1.13(様相), 1.19(量), 1.20(人間), 1.21(家族), 1.23(人物), 1.24(成員), 1.27(機関), 1.30(心), 1.32(芸術), 1.33(生活), 1.35(交わり), 1.37(経済), 1.44(住居), 1.45(道具), 1.50(自然), 1.51(物質), 1.52(天地), 1.54(植物), 1.56(身体), 1.57(生命), 2.12(存在), 2.15(作用), 2.30(心), 2.31(言語), 2.32(芸術), 2.33(生活), 2.35(交わり), 2.36(待遇), 3.30(心), 3.50(自然)の30種類となった。

い海鳥が長い翼を広げて風に乗る。(サンプル ID : PN5b_00002, 毎日新聞)

しかし、中項目を見るということは、当然、(10)の「カラス(中項目:1.55)」と「食べる(中項目:2.33)」・「飛び立つ(中項目:2.15)」のように、結合比喩ではない用例も多数取得されることになる。反対に、(11)のように「ラクダ(中項目:1.55)」と「はかせる(中項目:2.33)」の結合は比喩のように見えるが、比喩ではなく字義通りである例も取得される。収集した用例について、中項目以下の分類項目(5桁)を用いた再分類や、人手の検証を加える必要がある。

また、(10)の第2文は主語がなく、「カラス(中項目:1.55)」と「帰る(中項目:2.15)」が文を超えた結合となっている。このような文を超えた例は、文単位の調査では取得されない問題がある。(12)の例は、「狂犬(中項目:1.55)」が「江崎(人(中項目:1.20))」であると読めるが、文を超えた結合となる文脈比喩である。本稿の考察においては文脈比喩を扱わなかったが、文を超えた結合についても考慮しなければならない。

(10) 朝、カラスはねぐらから三々五々、餌を食べに飛び立っていきます。昼間は遊んで、夕方、ねぐらに帰るわけですが、そのときは一羽たりとも直接、帰ることはしません。(サンプル ID : PB24_00012, 中村幸昭「鳥羽水族館館長のジョーク箱」)

(11) そこで、サウジアラビア政府は、ラクダも死ぬし、ときには人も死ぬから大変だということで、ラクダと人間の平和共存のためのアイデアを世界中から募集し、採用されたのが、ラクダにパンツをはかせるというものでした。

普通のパンツではなく蛍光色の大きなパンツで、ひじょうに目立ちますからドライバーが発見しやすく事故が減ったそうです。

(サンプル ID : PB24_00012, 中村幸昭「鳥羽水族館館長のジョーク箱」)

(12) もし香保が江崎を激しく拒まなかったならば、殺されずにすんだかもしれない。香保が生命を賭して抵抗したことに、彼女の高木に対する愛の証しを見たような気がする。だが、いまとなっては、その愛の証しが恨めしい。要するに、狂犬に噛まれたので、香保には責任はない。(サンプル ID : PB19_00011, 森村誠一「雪煙」)

7. まとめ

本稿は、分類語彙表番号を付与した BCCWJ を活用する方法の一つとして、比喩表現における意味的な要素の結合を指標とした比喩表現用例の収集を試みた。

一部の「よう」のような比喩指標となり得る要素を含む指標比喩においては、指標の意味分類を用いることで、当該用例が比喩表現かどうかの判定に人手が不要となる可能性がある(5.1)。但し、「見える」「表現する」などの意味分類では対応しきれない指標もある。当該表現に含まれる要素の結合に着目することで、文脈に頻出する意味分類グループとの結合にずれがある分類番号から、結合比喩であるという判定が可能である(5.2)。そこで、結合比喩類型(中村, 1977)に含まれる意味分類の結合類型を整理し(6.1)、BCCWJに付与した分類語彙表番号を用いることで、比喩表現の収集を試みた(6.2)。この結果、BCCWJから取得された比喩表現を結合比喩類型の意味分類結合へ分類することが可能であった。しかし、現在の手法では、BCCWJから比喩表現を収集するためには、収集した結果を分類項目で再検証することや、人手による確認作業が必要であること、文を超えた比喩表現の扱いなど、解決すべき問題が多く残る。

本稿の考察結果を基に、分類語彙表番号を用いて多くの比喩表現の収集を試みたい。また、現在までのところ分類語彙表番号を付与した BCCWJ データの規模が小さいため、比喩表現類型ごとの頻度調査には不十分である。大規模な調査を行うことで、現代日本語における比喩表現の調査を進めたい。

謝 辞

本研究は国立国語研究所コーパス開発センターの共同研究プロジェクト「コーパスアノテーションの拡張・統合・自動化に関する基礎研究」(2016-2021年度)の成果である。また、JSPS 科研費 26770156, 17H00917 の助成を受けている。

文 献

- Andrew Hardie , Veronika Koller , Paul Rayson , Elena Semino. 2007. Exploiting a Semantic Annotation Tool for Metaphor Analysis. In: Proceedings of the Corpus Linguistics 2007 Conference.
- 加藤祥・浅原正幸・山崎誠. 2017. 「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』に対する分類語彙表番号アノテーション」, 言語処理学会第 23 回年次大会発表論文集.
- Veronika Koller, Andrew Hardie, Paul Rayson, Elena Semino. 2008. Using a semantic annotation tool for the analysis of metaphor in discourse, *metaphorik.de*, 15, 141-160.
- 中村明. 1977. 『比喩表現の理論と分類』, 国立国語研究所報告 57.
- 国立国語研究所 (編). 2004. 『分類語彙表増補改訂版データベース』
http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/archive.html#bunruiddb
- Semino, Elena. 2005. The metaphorical construction of complex domains: the case of speech activity in English, *Metaphor and Symbol*, 20, 1, 35-69.
- Elena Semino, Zsófia Demjén, Jane Demmen, Veronika Koller, Sheila Payne, Andrew Hardie and Paul Rayson. 2015. The online use of Violence and Journey metaphors by patients with cancer, as compared with health professionals: a mixed methods study, *BMJ Supportive & Palliative Care* 2015;0:1-7.
- 近藤明日子・田中牧郎. 2017. 「分類語彙表・UniDic 見出し対応表の構築 —コーパスへの網羅的・系統的な語義情報付与を目指して—」, 言語処理学会第 23 回年次大会発表論文集.

関連 URL

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』「中納言」<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>